

私たちの50年

日本と

UAE



本書の複写・複製を禁じます。©在アラブ首長国連邦日本国大使館  
デザイン: Fikra Design Studio

協力企業・団体・個人 (アルファベット・アイウエオ順、敬称略)

H.E. Sheikh Nahyan Bin Mubarak Al Nahyan Palace  
ADNOC  
Al-Bayan  
ENKA  
IPSO Arabia FZ LLC  
Mohammed Bin Rashid Space Center (MBRSC)  
アブダビ石油株式会社  
アラブ首長国連邦アブダビ日本人学校  
一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 中東研究センター  
一般財団法人 日本国際協力センター (JICE)  
宇宙航空研究開発機構 (JAXA)  
裏千家アブダビ  
株式会社INPEX  
株式会社ispace  
川崎重工業株式会社  
国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター  
コスモエネルギー開発株式会社  
ジャパン石油開発株式会社 (JODCO)  
駐日アラブ首長国連邦大使館  
独立行政法人 国際観光振興機構 (JNTO)  
独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)  
独立行政法人 日本貿易振興機構 (JETRO)  
日本アラブ首長国連邦協会 (日本UAE協会)  
日本外務省外交史料館  
日本UAE文化センター  
三菱重工業株式会社  
UAE合気会合気道  
UAE国立公文書館  
UAEレスリング・柔道連盟

アマニ・アル・シェヒビ  
アルム敦子  
カルサム・ユーセフ・タハヌーン  
大木春替  
岸田直子  
セイフ・アル・スワイディ  
セイフ・ユーセフ・タハヌーン  
玉榮茂康  
濱田晃志  
ハマド・アル・ザアビ  
百武良幸  
平岩夕佳  
ファラグ・バラカート  
マリアム・アル・カシミ  
マリアム・アル・サジュワーニ  
ムサビ・ムハンマド・イブラヒーム  
モニーラ・アフマド・ダルウィーシュ  
米田豊明  
ラード・アブドゥラー・アル・ヌアイミ  
ラティーファ・アル・ハンマーディ



## 日UAE外交関係樹立50周年祝賀メッセージ

日・アラブ首長国連邦 (UAE) 外交関係樹立50周年を心からお祝い申し上げます。日本の皇室とUAEの首長家の良好な関係が象徴するように、両国は深い友情で固く結ばれています。

過去50年間、日本とUAEの間では、伝統的なエネルギー分野に加え、近年では再生可能エネルギー、水素、アンモニアをはじめとする新エネルギー、科学技術、教育、インフラ、宇宙等の幅広い分野での協力も進んでいます。「包括的・戦略的パートナーシップ・イニシアティブ (CSPI)」の下、今後も戦略的パートナーとして、更なる協力関係の強化を図るとともに、本年が両国の「次の50年」に向けた特別な年となることを願っています。

盛況を博したドバイ万博の成功をお祝いするとともに、ドバイ万博のレガシーを引継ぎ、2025年の大阪・関西万博につなげていきたいと考えています。

## 日本国外務大臣 林芳正



## 日UAE外交関係樹立50周年祝賀メッセージ

日UAE外交関係樹立50周年を迎えるにあたり、今日の日本の平和と繁栄を築かれた日本の皆様に、私の尊敬の念をお伝えいたします。

日本とUAEは特別な関係で結ばれています。私たちの政治、経済、文化的関係は共通の目的と協力関係に彩られてきました。

両国は50年以上にわたり、自国の文化を大切に守りつつ、他国の文化を吸収するなど共通の優れた面を共有してきました。私たちは、人類の進歩、寛容、平等、対話、協力、平和的共存といった価値を共有し、地球の平和と安定、繁栄と福祉を追求してきました。これらの価値は、日本を一つにまとめ、UAEを強くさせ、そして両国の二国間関係の強固な基礎となってきました。

私は、日本とUAEがこれからも世界の平和と繁栄のためにグローバルな協力を推進していくことを確信しています。

## UAE寛容共存大臣

シェイク・ナヒヤーン・ビン・ムバーラク・アール・ナヒヤーン

UAE → 日本  
約10時間 (直行便)



UAE



日本

## UAE

面積  
約8.4万km<sup>2</sup>  
(北海道とほぼ同じ)

人口  
930万人  
(2020年: 国家統計局)

首都  
アブダビ

言語  
アラビア語

通貨  
ディルハム  
(1AED=約31円: 2022年1月末)

## 日本

面積  
約38万km<sup>2</sup>  
(UAEの約5倍)

人口  
1億2600万人  
(2021年: 総務省統計局)

首都  
東京

言語  
日本語

通貨  
円  
(1AED=約31円: 2022年1月末)

UAE連邦結成  
1971年12月2日

日UAE外交関係樹立  
1972年5月4日

在UAE日系企業数  
340社 (2020年10月)

日本のUAE国家承認日  
1971年12月3日  
(日本はUAEを承認した最初の5カ国の1つ)

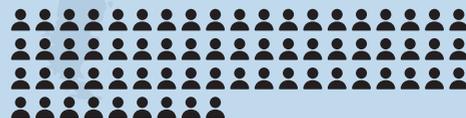
在留邦人数  
4,400人 (2021年10月)  
(中東・北アフリカ地域で最大)

UAEの主要輸出相手国  
日本は第2位  
(15,412百万ドル) (2020)

在日UAE人数  
82人  
(2021年6月)

在日UAE人留学生数  
66人  
(2021年6月)

日本の原油輸入  
UAEは第2位  
(79万バレル/日) (2020)



UAEの原油輸出相手国  
日本は第1位  
(1971年のUAE設立以来、一貫して第1位)

日本からUAEへの訪問  
125,845人 (2019)(JNTO)

UAEから日本への訪問  
8,891人 (2019)(UNWTO)

貿易総額 (日本からUAEへの輸出)  
720億ドル (2019年)(JETRO)

貿易総額 (UAEから日本への輸出)  
2,620億ドル (2019年)(JETRO)

## 皇室、王族、閣僚の往来

1970年 ハリーファ・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下 大阪万博にご参加、明仁皇太子殿下とご会見

1975年 ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム国防大臣 天皇陛下とご会見

1989年 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン参謀副総長 大喪の礼にご参列(昭和)

1990年 ザイド・ビン・スルターン・アール・ナヒヤーン大統領 国賓として訪日 天皇陛下とご会見

1990年 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン参謀副総長 即位の礼にご参列(平成)

2004年 ハムダーン・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン副首相兼外務担当国務相 外務省賓客として訪日 徳仁皇太子殿下とご会見、小泉総理、川口外相とご会談

2007年 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下 公式実務訪問賓客として訪日 天皇陛下とご会見

2014年 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下 公式賓客として訪問 天皇陛下とご会見、安倍総理とご会談

2017年 アブダッラー・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン外務・国際協力相 外務省賓客として訪日 徳仁皇太子殿下とご会見、安倍総理、岸田外相とご会談

2019年 ハッザーア・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ執行評議会副議長 即位の礼にご参列(令和)

1973年 三木副総理 UAE 訪問 ザイド・ビン・スルターン・アール・ナヒヤーン大統領を表敬

1978年 園田外相 UAE訪問 ハリーファ・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下、アフマド・ハリーファ・アール・スウェイディ外相とご会談

1978年 福田総理 UAE訪問 ザイド・ビン・スルターン・アール・ナヒヤーン大統領とご会談

1995年 徳仁皇太子殿下同妃殿下 UAEご訪問

2001年 河野外相 UAE訪問 スルターン・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン副首相、アブダッラー・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン情報文化相とご会談

2004年 川口特派大使(総理大臣補佐官、前外相) ザイド大統領薨去に伴う弔問のため UAEを訪問 ハムダーン・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン副首相兼外務担当国務相とご会談

2007年 安倍総理 UAE訪問 ハリーファ・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン大統領とご会談

2012年 玄葉外相 UAE訪問 アブダッラー・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン外務・国際協力相とご会談

2013年 安倍総理 UAE訪問 ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム副大統領兼首相兼ドバイ首長、ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下とご会談

2017年12月 河野外相 UAE訪問 アブダッラー・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン外務・国際協力相とご会談

2018年1月 河野外相 UAE訪問 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子を表敬

2018年4月 安倍総理 UAE訪問 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子とご会談

2020年1月 安倍総理 UAE訪問 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子とご会談

2022年3月 林外相 UAE訪問 アブダッラー・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン外務・国際協力相とご会談

2022年5月 甘利総理特使(衆議院議員、元経済産業大臣、元経済再生担当大臣) ハリーファ大統領薨去に伴う弔問のため UAE訪問、ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン大統領、ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム副大統領兼首相兼ドバイ首長とご会談

1970



1970年9月 ハリーファ・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下、大阪万博ご参加のためご訪日。明仁皇太子殿下とご会見 日本外務省外交史料館所蔵

1970年9月 ハリーファ・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン殿下、ご来日時佐藤栄作総理とご会談 日本外務省外交史料館所蔵

1973



1973年12月 三木武夫副総理、UAEを訪問しザイド・ビン・スルターン・アール・ナヒヤーン大統領を表敬 © 日本UAE協会

1975年4月 ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム国防大臣ご訪日。同殿下は、1973年の日本航空機ハイジャック事件で、飛行機がドバイ空港に強制着陸した際に犯人グループと交渉にあたられ、事件の解決に向けてご貢献された。写真は三木武夫総理とのご会見 © 日本UAE協会

1975



1978



1978年9月 福田赳夫総理、UAEを訪問しザイド・ビン・スルターン・アール・ナヒヤーン大統領と大統領宮殿で会談 © Kyodo/Kyodo News Images

1978年9月 福田赳夫総理、マクトゥーム・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム首相とアブダビの迎賓館で会談 © Kyodo/Kyodo News Images



1989

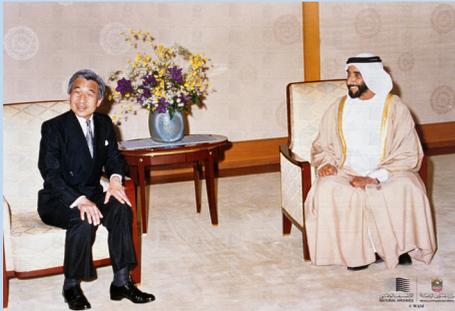


1989年2月 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン殿下、大喪の礼にご参列するためご来日。写真は小池百合子日本アラブ協会事務局長とご歓迎式典にて © 日本UAE協会

1989年2月 歓迎式典にて天ぷらを召し上げるムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン殿下 © 日本UAE協会



1990



1990年5月 ザイド・ビン・スルタン・アール・ナヒヤーン大統領  
天皇陛下とご会見 © UAE国立公文書館



1990年5月 ザイド・ビン・スルタン・アール・ナヒヤーン大統領  
天皇陛下とご会見 © UAE国立公文書館



1990年5月 ザイド・ビン・スルタン・アール・ナヒヤーン大統領  
赤坂御用地内ご散策 © UAE国立公文書館



1990年5月 ザイド・ビン・スルタン・アール・ナヒヤーン大統領  
東京都内の番町小学校ご視察 © 日本UAE協会



1990年5月 ザイド・ビン・スルタン・アール・ナヒヤーン大統領  
両国にて相撲ご見学 © 日本UAE協会



1990年5月 ザイド・ビン・スルタン・アール・ナヒヤーン大統領  
葛西臨海水族園ご見学 © 日本UAE協会

1995



1995年1月 皇太子同妃両殿下 アブダビ空港にてハリファ・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下がお出迎え  
© 在UAE日本大使館



1995年1月 皇太子同妃両殿下 アブダビ空港にてハリファ・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下がお出迎え  
© 在UAE日本大使館



1995年1月 皇太子同妃両殿下 ハフィート山ご訪問 撮影地アル・アイン © 朝日新聞社



1995年1月 皇太子同妃両殿下 クルーズご乗船 撮影地ドバイ © 朝日新聞社

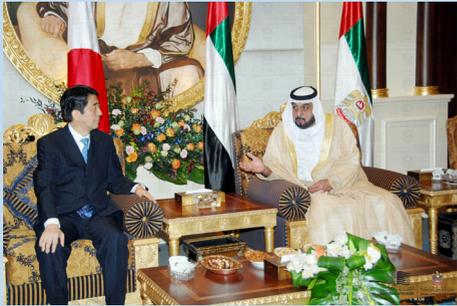


1995年1月 皇太子同妃両殿下ラクダレースご鑑賞 撮影地アル・アイン © 朝日新聞社

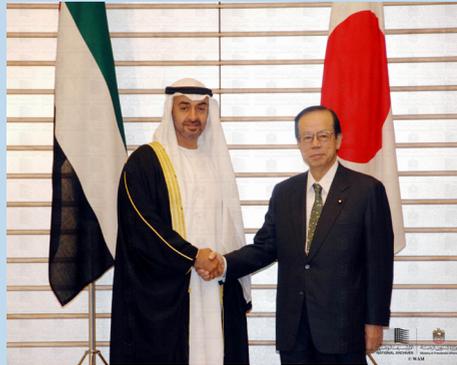


1995年1月 皇太子同妃両殿下 ムハンマド・ビン・ラシド・アール・マクトゥーム・ドバイ皇太子殿下とのご会見 撮影地ドバイ © 朝日新聞社

2000年以降～



2007年4月 安倍晋三総理がUAEを訪問、ハリファ・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン大統領と会談 © UAE国立公文書館



2007年12月 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下が日本をご訪問、福田康夫総理とご会談©UAE国立公文書館



2014年2月26日 ご訪日中のムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下、宮中午餐会にて ©WAM



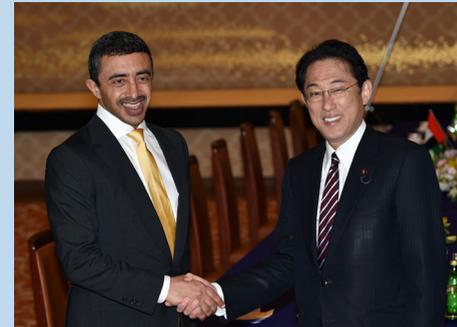
2014年2月 ご訪日中のムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下 東海大高輪台高校柔道をご見学 ©INPEX



2013年5月 安倍晋三総理がUAEを訪問 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下と会談 ©UAE国立公文書館



2014年2月25日 羽田空港での歓迎式典でのムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下と徳仁皇太子殿下 ©WAM



2017年4月 日UAE外相会談 ご訪日中のアブダラー・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン外務・国際協力相と岸田文雄外相 ©外務省



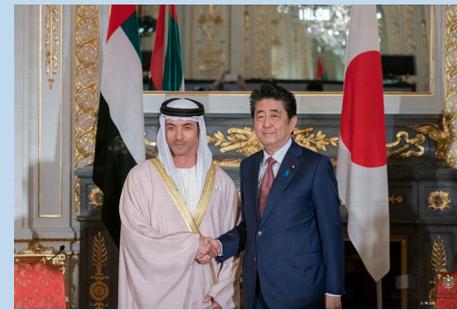
2018年4月 安倍晋三総理UAE訪問 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下との会談 ©内閣広報室、官邸HPより



2014年2月 ご訪日中のムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下と安倍晋三総理 ©WAM



ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下と裏千家第15代家元千玄室大宗旨 エミレーツパレスの緑水庵にて ©裏千家アブダビ



2019年10月 ハッサーア・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ執行評議会副議長 即位の礼ご参列のためご訪日©UAE国立公文書館



2020年1月 安倍晋三総理UAE訪問 ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下との歓迎式典にて ©内閣広報室、官邸HPより

## 建国前後のUAEと日本

日本は、UAEの建国前後に国造りに大きく貢献。建国の父ザイド大統領は近代化に非常に熱心であり、アブダビ首長国が手にし始めた石油収入を活用し、都市建設や学校の整備、衰退した真珠産業に代わる新たな産業の育成などに取り組んだ。この時、日本の技術者や日本企業が活躍していたことは、あまり知られていない。1960年代後半以降、「休戦諸国 (Trucial States)」には石油会社だけでなく、商社、電機、建設、コンサルなどの日本企業が相次いで進出しており、新しい国造りを支えていた。そこには、工業国として成長を果たす日本に対する、ザイド大統領の大きな期待があったと言えるだろう。真珠から石油経済への転換、そして現在取り組まれている脱石油経済への取組みにおいて、日本はいつもUAEと歩んでいる。

1920s ←

### 真珠

アラビア湾は古代より天然真珠の貿易地として知られていた。20世紀初頭、真珠産業はアブダビ総収入の95%を占めていた。しかし、1910年以降のアブダビ首長国内の政変や第一次世界大戦、世界恐慌の影響、日本の養殖真珠の成功などから真珠産業は衰退していった。



©UAE国立公文書館

1960s ←

### 石油

アブダビ首長国で1958年に最初の海上油田が発見された後、1967年、日本の石油会社がムバラス、ダルマ両鉱区の利権協定を締結。



利権協定締結 (1967)

アブダビ首長 (1967)

1967年12月 利権協定に署名するザイド・アブダビ首長 ©アブダビ石油

### 自動車・電化製品

巨大な石油収入を得た「休戦諸国 (Trucial States)」では、日本車が交通機関の主柱となる。また、市民に憩いを与えるポータブル・ラジオをはじめとする家庭電化製品や時計も日本製品が圧倒的に好評であった。



サイン 三菱自動車 (1967)

1960s ←

### アブダビ都市設計

1960年代後半、ザイド大統領の指導の下で推し進められたアブダビの都市開発計画で、日本人技術者の高橋克彦氏は、大統領からの絶大な信頼を得て、アブダビ都市計画マスタープランの改訂に尽力した。ザイド大統領とは都市設計のあり方について毎日のように議論を交わしたという。複雑怪奇なドバイの道路と違い、アブダビの道路は単純明快で、どこか京都の基盤の目のような区画を思い出させる。



1970年アブダビ市内コルニーシュ通りを上空から ©UAE国立公文書館



ザイド大統領と都市計画を議論する高橋克彦氏



1970年アブダビのグランドモスクを上空から ©UAE国立公文書館

1971 ←

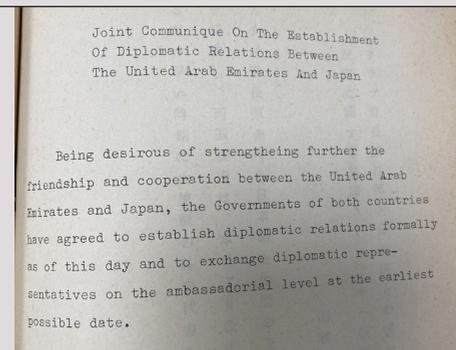
### UAE連邦結成、国家承認

1971年12月2日にアラブ首長国連邦を結成。日本は、連邦結成の翌日にUAEを承認。UAEを承認した最初の5カ国のひとつ。

1972 ←

### 外交関係樹立

1972年5月4日、高橋直智駐クウェート大使とアル・スウェイディ (H.E. Ahmed Khalifa Al-Sowaidi) 外務大臣との間で、両国政府が外交関係を設定する旨の書簡交換が行われた。



日本外務省外交史料館所蔵

## エネルギーを通じた50年

日本は、1971年のUAE建国以来、50年間に亘り、一貫してUAE原油の最大のバイヤーとしてUAEとの揺るぎない互恵経済関係を築き、今日に至っている。現在もUAE産原油の4分の1以上が日本に向けられている。

日本とUAEのエネルギー関係は、UAEがまだ休戦諸国(Trucial States)と呼ばれていた時代、1960年代半ばから始まる。1967年には、日本の石油会社はザイド・アブダビ首長との間で、アブダビ海洋鉱区(ADMA)に関する利権協定を締結した。その後、1969年9月には試掘第1号井で出油に成功した。この時発見された油田はムバラス油田と名付けられた。これ以降、日本の石油会社は50年以上に亘り、アブダビでの石油開発・生産に深く携わっていくことになる。



1967年12月 利権協定に署名するザイド・アブダビ首長 © アブダビ石油



1978年3月 JODCOとADNOCがアブダビ市の北西約80km沖合に位置する上部ザクム油田の共同開発協定に調印 ©INPEX



2019年3月 INPEXがアブダビの陸上探鉱鉱区(Onshore Block 4)の権益を取得 ©INPEX



アブダビ石油最新のヘイル油田サイトターミナル。産出された原油等は海底配管でムバラス島に送られ出荷前の最終処理を行う ©アブダビ石油



ムバラス油田の海上集油基地。各生産井から産出された原油等は海底配管でここを経由してムバラス島に送られる ©アブダビ石油

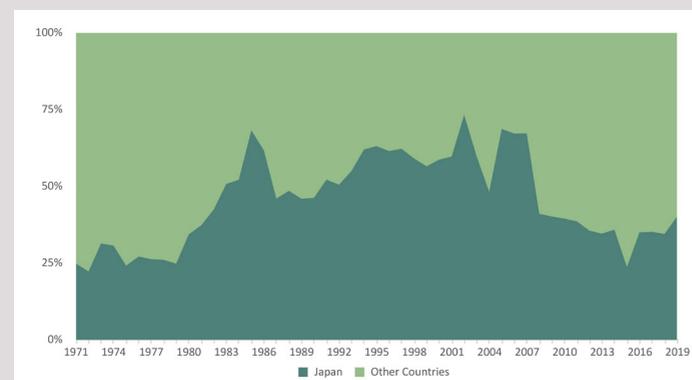
1973年に第四次中東戦争が勃発し、石油ショックが起こった時、日本はアラブ産油国から非友好国の扱いを受けて石油確保の危機に直面した。しかし、当時頻繁に来日していた親日家のオタイバ石油鉱物資源大臣が、パレスチナ問題における日本の姿勢をOPECの会議で説明してくれたことにより、日本は友好国に格上げされた。日本はUAEの取り成しにより、再び原油の安定供給を受けることができたのだ。

両国のエネルギー関係を数字で見よう。今日、日本が輸入する石油の約3割はUAEからやってきている。またUAEが輸出する石油の約3割も日本へ向かっている。更に、日本が海外で権益を持つ自主開発油田の約4割はアブダビ首長国に集中しており、その重要性は明らかである。アブダビ政府は日本の石油会社に、陸上油田については2055年まで、海上油田については2058年まで権益を認めている。

このように、UAEは長年にわたり日本のエネルギー安全保障を支えており、また日本もUAEの重要なエネルギー市場の一角を成してきた。エネルギー分野は、まさに両国の中心的な柱である。



1976年11月 OPEC東京セミナーのオタイバ石油鉱物資源大臣 ©日本UAE協会



UAEの原油輸出先における日本の割合 (1971~2019年)

Annual Statistical Bulletin (OPEC), UN Energy Statistics Yearbookをもとに日本エネルギー経済研究所中東研究センター作成



陸上探鉱鉱区(Onshore Block 4)で油ガス田の探鉱に関わる技術者ら ©INPEX



陸上探鉱鉱区(Onshore Block 4)の試掘井。2021年に油ガス層が発見され、大規模な埋蔵量が期待されている ©INPEX

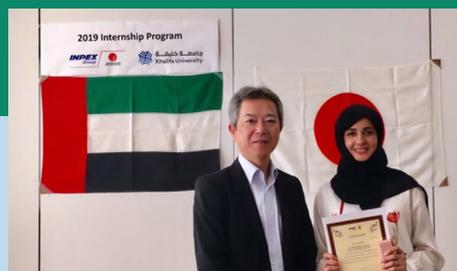
## 次なる50年へ:エネルギーの新たなフロンティア

日本とUAEは互いに不可欠なパートナーとして、新しいエネルギーの時代をともに歩んでいる。

日本とUAEは、次世代を担うエネルギー人材の育成においても協力してきた。石油会社は1993年から毎年、UAE人の学生を日本に招き、地学実習を行っている。また、石油会社はPetroleum Institute (PI) を組み込んだハリーフア大学に対する教育支援を続けている。さらには、JOGMECやJCCPなどのエネルギー機関も、多くのUAE人の技術者に向けた研修を提供してきた。

2019年夏、私はハリーフア大学のインターン生3名に選ばれ、訪日しました。INPEX/JODCO (ジャパン石油開発) での3ヶ月は非常にユニークなものでした。私は大学で石油・ガス事業について学んでいましたが、日本で働いたこと、直江津LNG基地や地球深部探査船を視察し、JFEスチールで働いたこと、INPEXの長い歴史を学んだことは本当に啓発的なものでした。この日本での経験は、単に日本の勤務環境について教えてくれただけでなく、日本人の倫理観や勤勉さを学ばせてくれました。INPEXでの経験により、私は現場で働く楽しさを知り、現在はADNOCのダス島のサイト・エンジニアとして働いています。UAEと日本のインターンシップのプログラムが今後も継続し、私と同じように、多くの未来のエンジニアが学ぶことができるよう、願っています。

- マリアム・アル・サジュワーニ



©マリアム・アル・サジュワーニ

両国のエネルギー関係者は、1990年代半ばから石油生産時に発生する随伴ガスの回収によるゼロフレアリングに取り組むなど、環境保全に強い問題意識を持ってきた。そして今日、世界的な脱炭素化潮流が進行するなかで、日本とUAEは2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、太陽光発電プロジェクトの実施や、水素やアンモニアなどの新しいクリーンエネルギーの共同開発に取り組んでいる。

## 水素・アンモニア

日本とUAEは、水素及びアンモニアにおいて、政府間での国際的なサプライチェーン構築に向けた協力や、民間企業間での燃料アンモニアの製造・調達に係る協力・提携等を通じ、世界の脱炭素化の進展に向けて協業している。



研修生 直江津LNGターミナル見学 ©INPEX

## 海底送電線

ADNOCの洋上施設への電力供給のための海底送電線敷設事業に、日本企業が参画。陸上のクリーンな電力の供給により、二酸化炭素排出量の30%以上削減を図る。



コスモ石油千葉製油所でのインターン ©コスモエネルギー開発



TAZ'IZコンプレックスにおける水素・アンモニアの製造の協業 ©ADNOC



CCUS (二酸化炭素の回収・利用・貯留) プラントでの協業の可能性 ©ADNOC



我が国の液化水素運搬船を利用した世界的な水素供給網構築の検討 ©川崎重工業



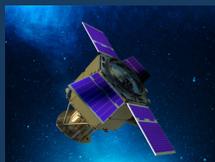
ADNOCの洋上施設 ©ADNOC

## ともに宇宙へ：月、火星、その先へ

日本とUAEの協力は宇宙空間へと広がっている。赤い惑星たる火星探査、月面探査など協力のフロンティアは広がっている。

### ハリファ・サット(地球観測衛星)の打上げ

2018年10月、日本のH-IIAロケット40号機により、種子島宇宙センターから、UAE初の国産人工衛星ハリファ・サットの打上げに成功。同衛星は多目的の地球観測衛星として、高解像度の画像を収集中(使用期間は5年)。



ハリファ・サット ©MBRSC



H-IIAロケット40号機 ©三菱重工/JAXA

### ホープ・プローブ(火星探査機)の打上げ

2020年7月、日本のH-IIAロケット42号機により、種子島宇宙センターから、UAEの火星探査機ホープ・プローブの打上げに成功。同探査機は2021年2月に火星の衛星軌道に到達し、火星の大気の動き、天候等の詳細な画像の収集中。



火星とホープ・プローブ ©MBRSC



「きぼう」実験棟内でのハッザーア・アル・マンズーリ飛行士(左)とMBRSCの学生(右) ©JAXA/NASA



### 「きぼう」実験棟内での教育プロジェクト

2019年9月、国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟内での教育プロジェクトを実施。UAE初の宇宙飛行士ハッザーア・アル・マンズーリ飛行士が、筑波宇宙センターとUAEドバイ政府宇宙機関(MBRSC)を繋ぎ、宇宙から教育実験を行った。UAE学生とハッザーア飛行士は宇宙と地球で出題したり質問に答えたりした。また、UAEは2020年以降、ロボットプログラミング競技会や植物実験にも参加している。日本とUAEは、更に、「きぼう」からの超小型衛星放出や科学実験の企画検討を進めている。



H-II-A 42 ©JAXA

### 超小型衛星の「きぼう」実験棟からの放出

2022年2月、UAEのハリファ大学で開発した、地上ガンマ線バーストの観測を行う超小型衛星(Light-1)がISSの「きぼう」から放出された。



「きぼう」からの超小型衛星の放出 ©JAXA/NASA

### 月面探査機の開発

UAEが宇宙関連日本企業と協力する、2022年中の実施を目指している月面探査計画。成功すれば、世界4番目の月面探査を実施した国となる。

探査機は全てUAE人技術者により設計・製作され、また、日本企業の月着陸船によって月に輸送される予定。



月面探査機Rashed Rover ©MBRSC



月着陸船 ©ispace

## 次なる50年へ:若田光一宇宙飛行士からのメッセージ

幸運にも私はUAEの宇宙飛行士や宇宙事業関係者と様々な機会でご一緒させていただき、印象に残っている事項が多くあります。

例えば、2018年10月、UAEの地球観測衛星ハリーフア・サットが日本のロケットで打ち上げられた時、UAE宇宙庁長官はじめ御一行を私も種子島宇宙センターでお迎えし、打上げを一緒に見守りました。また、2020年7月、UAE初の火星探査機「HOPE」打上げの際には、サラ・アル・アーミリUAE高等科学担当相兼宇宙庁長官を種子島でお迎えしました。この7月20日は思い出に残る一日でした。7月20日というのは、ちょうどアポロの月着陸の日にあたります。51年前のアポロ11号が有人月面着陸したその記念すべき日に、UAEの火星探査機の打上げが成功したことを全員で祝うとともに、今回の火星探査機打上げは、これからの50年、UAEの宇宙開発に大きな影響を与えるとUAE関係者が仰っていたことが思い出されます。アラブ初、中東初の火星探査の挑戦が、アポロの月着陸という記念すべき日に成功したことは、UAEやアラブ地域の若い世代へ大きな影響を与えるのではと思います。

また、2019年9月、UAE初の宇宙飛行士ハッザーア・アル・マンズーリ飛行士が宇宙へ飛んだとき、国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟の中で、アラビア語による宇宙教育イベントを行いました。そのときのマンズーリ飛行士とは、今も、ヒューストンのNASAジョンソン宇宙センターで様々な訓練を一緒に行っています。

実は、UAE宇宙庁諮問委員会に参加する前は、UAEに行ったことがありませんでした。2018年4月に初めてアブダビを訪問し、強く印象に残っているのは、宇宙庁の若い人たちの活躍でした。優秀な若者が集まっており、極めて大きな事業を少人数でうまく動かしています。特に、若い人たちが目を輝かせてやりがいを持って仕事に取り組んでいる姿が印象的でした。また、サラ・アル・アーミリ宇宙庁長官を含め、女性の進出が非常に進んでいます。UAE宇宙庁の4割が女性と聞いています。NASA等を含めても、宇宙開発に参加している各国の中で、宇宙庁に占める女性の割合が最も高いのはUAEだと思っています。

現在、UAEは、急ピッチで様々な計画を達成しています。しかもそれを、長期的なビジョンを持って進めています。2014年にUAE宇宙庁が創設されましたが、その後、UAEの国産人工衛星の開発、打上げ、UAE初の宇宙飛行士のISS搭乗、火星探査機の開発および打上げ、それを火星の軌道にうまく載せたなど、すばらしい偉業を非常に短い期間で成功させています。

2021年10月には金星や小惑星体の探査に関する計画の発表もあり、さらに様々な分野で宇宙分野の挑戦を続けていると感じています。そのような急ピッチの活動を見ても、計画を着実に成功させ、新たな挑戦を続けているUAE政府に心からの敬意を表します。

若田光一宇宙飛行士



JAXA若田宇宙飛行士©JAXA/NASA

### 若田光一宇宙飛行士

2018年にUAE宇宙庁諮問委員就任以来、UAE宇宙庁の政策や事業計画に関して戦略的・技術的なアドバイスを提供。



2020年7月火星探査機「HOPE」を打上げたH-IIA 42号機©MHI



2020年7月サラ・アル・アーミリ高等科学担当相兼宇宙庁長官とJAXA山川理事長 ©JAXA



2020年7月火星探査機「HOPE」打上げを見守るサラ・アル・アーミリ高等科学担当相兼宇宙庁長官と関係者ら ©JAXA

**教育: "若者こそ我らの未来である。真の富とは財ではなく人材である。"**  
**(ザイド大統領のUAE大学学位授与式祝辞)**

**アブダビ日本人学校**

アブダビ日本人学校は、UAE人と日本人の生徒が共に学ぶ世界でも珍しい日本人学校です。同校は、ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子殿下の強い要望を受けて、2006年からUAE人児童の受け入れを開始しました。両国児童生徒が机を並べて勉強する姿は、今や日UAE親善関係のシンボルともなっています。中学卒業後も日本での学習を続け、2021年には初の同校出身のUAE人生徒が東海大学に進学しました。学力向上に加え、宗教・人種・性別等の違いを越えた寛容な心、他人を尊重する姿勢、努力する態度などの価値観が子供達の中に自然に醸成される日本人学校は、アブダビの人気校の一つになっています。



1978年 開校式©アブダビ日本人学校



1979年 学校行事©アブダビ日本人学校



1980年 相撲大会©アブダビ日本人学校



アブダビ日本人学校での昼食風景©日本UAE協会



アブダビ日本人学校を卒業したUAE人生徒は、現在、東京の東海大学付属高輪台高校で学んでいる。 ©在UAE日本大使館

**日本への留学**

2013年、UAEを訪問した安倍総理はムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子との会談において、日本が5年間で500人のUAE人留学生を受け入れることを伝え、両国は教育協力を強化することで一致しました。2017年までには500人以上のUAE人が日本に留学、その後も多くのUAE人学生が、日本各地の大学において環境学や機械工学、経営学等様々な学問を専攻、研究活動を行っています。



©モニラ・アフマド・ダルウィーシュ氏

**モニラ・アフマド・ダルウィーシュさん**

1994年、私は、UAE人女性初の日本政府奨学金による国費留学生として日本に住み始めました。それを今も誇りに思います。日本に降り立ったその日から、私の心は、この、本物の人々、鮮明な文化、そして美しい言語に魅了されています。留学を終えてUAEに帰りましたが、私の心は日本に残っています。私は自分の子供に、日本や日本人について多くのことを語っています。子供たちは日本に行ったことはありませんが、日本のことが大好きです。かつて私もそうだったように。久しぶりに、2019年に家族と一緒に日本を旅行しました。また近いうちに、日本文化と日本語を学ぶために日本に住みたいと思っています。

**日本語学習**

UAEにおける日本語教育は近年徐々に増加の傾向にあります。現在、日本国際協力センター(JICE)による派遣教師がザイド大学、ハリファ大学、UAE大学およびアブダビ大学で、また2021年からはシャルジャとドバイの公立高校3校でも新たに日本語を教えるようになったほか、日本の石油会社による派遣教師がアブダビの応用技術高校(ATHS)で日本語を教えています。また、民間の語学学校でも日本語学習が行われており、約600人(2021年)が教育機関に所属して日本語を学んでいます。



日本語学習者たち©JICE

## 日本との架け橋

### 世界青年の船

世界青年の船事業は、内閣府青年国際交流事業の一つで、日本参加青年約120人と外国青年約120人が船内で1ヶ月共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流等を行います。これまでUAEからは、14回に渡り131名の青年が同事業に参加しました。元参加青年による同窓会も組織されています。



©世界青年の船UAE同窓会



©ハマド・アル・ザアビ氏

私は2010年の世界青年の船プログラムに参加しました。世界各地の230人の若者が一つの船に集まって寄港地を廻ることは素晴らしい経験となりました。その期間、様々な異文化や日本文化を知ることができました。世界中に家族を作り、生涯つづく友情を築けたこのプログラムに参加できて、本当に良かったと思います。

—ハマド・アル・ザアビさん

### がんばれ日本！ UAEは日本とともにある

2011年3月の東日本大震災では、日本は広範囲で甚大な被害に見舞われました。UAEは、その際に、アブダビ世界見本市の収益金の一部や、JAFZAなどの企業による義援金、ムハンマド（ドバイ首長）人道慈善団体（Mohammed Bin Rashid Al Maktoum Humanitarian & Charity Est.以下、Mチャリティ）からの被災地への毛布・家屋修復用パネル板の援助など、多くの支援を行ってくれました。また、これを皮切りに、ハリーフア首長（前大統領）基金（Khalifa bin Zayed Al Nahyan Foundation）による日本人ムスリムへの支援（2018年）や、Mチャリティによるイフタル支援（2011年～）、イスラーム文化交流会館の設立（2016年）、オリンピック選手村啓蒙活動（2019年）など、さまざまなUAEの援助団体が、日本の被災者や日本にいるムスリムを援助する慈善事業を始めています。



M-Charityから支援を受けた家屋修復用パネル板©日本UAE文化センター



M-Charityから支援を受けた東京五反田のイスラーム文化交流会館©日本UAE文化センター

### 日本UAE文化センター

日本UAE文化センターは、2008年3月に岸田直子氏により在留邦人とUAE人との文化交流を深めることを目的に開設されました。現在は、シャルジャやドバイを中心にUAE全国で日本語講座やアラブ文化講座、サマーキャンプや新年会、交流ボランティアなど様々なイベントを行っています。2008年からの累計生徒数は4500名（2021年現在）。2018年には設立10周年を盛大に祝いました。代表の岸田直子氏は、世界青年の船の元参加者でもあります。



新年会で書式の例を解説©日本UAE文化センター

### ENKA

ENKA (Emirates Nihon Keiken Association) は、2017年にアムナ・アル・ダルマキ氏によって開設されました。UAEと日本出身の15人のメンバーが、両国で多くのイベントを行なっています。ENKAは、日本とUAE文化のハブとなるべく、文化を通じた交流事業を推進しています。



ENKA文化イベント©ENKA



百人近く集まる毎年恒例の新年会©日本UAE文化センター

## UAEで根付く日本文化



©裏千家アブダビスタディー・グループ

### 裏千家アブダビ

2009年、シェイク・ムハンマド・ビン・ザード・アール・ナヒヤーン皇太子殿下へ友好のしるしとして、裏千家第15代家元 千玄室大宗匠献上の茶室、緑と水に恵まれた心のオアシスとなることを願って命名された「緑水庵」の茶室披露が、エミレーツパレスで執り行われました。

そして2010年より、アブダビで茶道のお稽古が始まりました。アブダビ茶道のユニークなポイントは、UAEの文化を織り交ぜているところです。砂漠の砂をあしらった茶碗を用いたり、アラビア語で書かれた掛け軸を飾ったり、UAEのお菓子でおもてなしするなど工夫が凝らされています。

宗教、文化、生活環境、言葉が違っていても、感謝、お互いを尊敬し思いやる気持ち、そしておもてなしの心は世界共通だと思います。茶道を通じて、日常の中での正しい姿勢を身につけ、常に落ち着き、周囲に心を配ること、そして他者を受け入れることを伝えたいと思っています。

- 茶道裏千家助教授：平岩夕佳さん

私の茶名は宗彩です。2008年から茶道を始め、今日まで学び続けています。茶道は、私の心に平和をもたらしてくれます。ゆっくりと進むお手前の過程の中で、私は自分の心が穏やかになると感じます。日本に関心がある方々、特に若い方々にはぜひ茶道を体験してもらいたいと思います。

- セイフ・アル・スワイディさん

### UAE合気会合気道

ドバイに拠点を置くUAE合気会合気道は、2015年にライセンスを取得し、今日まで活動を続けています。現在のメンバーは約30名。道場長のマツ・アイトケン氏を含む5名の有資格講師が合気道を教える他、さまざまな場所で合気道のデモンストレーションを行うなど精力的に活動しています。



© UAE合気会合気道

### いけばな小原流UAE支部

2014年にドバイで生け花教室を開始、2022年からはいけばな小原流UAE支部として活動しています。同グループ代表の大木春慧さんがドバイとアブダビで定期的に生け花教室を開催、現在、50名のメンバーが生け花を楽しんでいます。様々なイベントにおける生け花展示も行っています。



© いけばな小原流UAE支部

若いエミラティの方々は、はっきりとしたビジョンを持ち、異なる文化をどんどん吸収していこうとする方々が多いと感じています。初めて誕生したエミラティの准教授資格者、そして今後育っていく生徒さんたちには、今後この地でどんどん生け花、そしてそれに通じる日本の文化を自身の学びをもとに啓蒙して欲しいと思います。

- 小原流家元2級教授：大木春慧さん

私が日本文化に興味を持ったのは日本大使館主催の文化イベントで、好奇心で生け花教室に通い始めましたが、それはすぐに情熱に変わりました。生け花を通じて、自然に深く根付いた日本の美の哲学を理解することができました。

- エミラティ初の小原流准教授：アマニ・アル・シェヒさん



© 在UAE日本大使館

### UAEレスリング・柔道連盟

UAEレスリング柔道連盟は2001年に発足、UAE各地において柔道の普及やナショナルチームの育成を行っています。当初はUAEであまり知られていなかった柔道ですが、現在では800人強の柔道人口が各地の柔道センターで柔道に取り組んでおり、柔道日本国大使杯等をはじめとした国内大会や、アブダビ柔道グランド・スラムといった国際大会も開催されています。2008年の北京オリンピックに初めてUAE人柔道選手が出場して以来、毎回オリンピックに柔道選手を輩出しています。

UAEは故国日本より長く在住して生きてきた国。私にとっては第二の故国であり、心の故郷です。愛して止まない国です。これから益々、両国が文化、人材交流を活発化し、相互理解を深め、友好と親善を深めていくことを期待しております。柔道においてもUAEで柔道が益々普及、発展し、青少年の健全な心身の発達に貢献していくことを願っています。

- 元UAEレスリング・柔道連盟顧問：米田豊明さん

## 次なる50年へ:グリーン

砂漠の緑化運動に力を注いだザード大統領の意志を引き継ぎ、UAEはグリーンに力を入れている。その一翼を支える日本人がいる。

### マングローブ

経済発展に伴って失われたマングローブ林の再生に玉榮茂康氏が貢献した。

1980年からJICAの専門家として、ウンム・ル・カイワインのUAE水産資源開発センターの開設に尽力した玉榮氏は、マングローブの植林にも邁進し、この手腕が買われてアブダビから招聘され、アブダビ各地でマングローブ植林を指導した。マングローブ林は海の肺(Lung)とも言われ、水を浄化する。マングローブの広がる沿岸には大小の魚が生息し、海鳥も飛来するようになった。

2021年11月、英国で開催された第26回気候変動枠組条約締約国会議(COP26)において、UAE政府は、2030年までに1億本のマングローブを植林すると発表した。

日本の石油会社も、マングローブの植林に力を入れている。1983年から始めたムバラス島の石油生産地での植林事業は大きな成果をもたらしている。マングローブ林に加え、ジュゴンが遊泳しオスプレイ(ミサゴ)が乱舞するムバラス島は、将来のUAEのエコツーリズムの実験モデルにもなる可能性を秘めている。



©玉榮茂康氏



©玉榮茂康氏



©玉榮茂康氏



©玉榮茂康氏



ムバラス島で実施しているマングローブ植林©アブダビ石油



美しい空と海:自然を守るムバラス島の浅瀬©アブダビ石油

### 農業協力

日本の農業技術をUAEに伝える努力も1970年代から始まっている。

近年、日本企業とJIRCAS(国際農研)等はアジアモンスーン植物工場システム社会実装ワーキンググループを立ち上げ、イチゴ・トマト等の果菜類の栽培をUAEで実証試験を行うための協議を進めている。在京UAE大使館は、本ワーキンググループのオブザーバーとして本件を推進している。



(農業協力)©国際農研

### アブダビ真珠プロジェクト

ハムダーン・ビン・ザード・アール・ナヒヤーン殿下の要請により、アブダビ環境庁のプロジェクトとして、アブダビの真珠を持続可能な方法で復活させる実験が開始された。アブダビ東部海域で、日本人専門家がローカルの真珠産業の伝統をよみがえらせ、持続可能な真珠養殖を成功させるべく奮闘している。



©濱田晃志氏

## 万博がつなぐ過去と未来

- 1970年大阪、2020年ドバイ、2025年大阪 -



Expo '70アブダビ館Osaka Expo '70 ©写真提供：大阪府

1970年の大阪万博から半世紀。2021年、中東初の万博となるドバイ万博2020が開催された。世界中がコロナ危機克服を模索する中実施された最大級の国際的なイベントの開幕となった。奇しくもUAE建国50周年の節目となったドバイ万博は、日本・UAE関係を象徴し、また歴史的一幕を回顧する機会になった。

時はドバイ万博開催50年前の1970年。入場者数6400万人を動員し、21世紀近くまでに渡り万博史上最高入場者集を誇った日本初の万博が、大阪で開催された。当時高度成長期の日本は、1967年にアブダビと油田利権協定を結び、日本の石油会社は頻りにザイド・アブダビ首長を訪問していた。日本はアブダビに、大阪万博に参加してはどうかと提案し、アブダビはこれに応え、アルアインのジャーヒーリー要塞を模したアブダビ館を出展。アラブ文化を万博来場者に伝えた。

初めて参加した大阪万博から50年後、UAEは中東初の万博開催国となり、そしてそのバトンを、アジア初の万博開催地であった日本へと渡す。

2025年4月、大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマのもと開催する。両国の思い出の地大阪で、互いに辿ってきた歴史の追憶と共に、未来社会の共創に向けて、UAEの皆さんをお迎えできることを日本は待ち望んでいる。



Expo '70 ナショナルデイスピーチ 日本外務省外交史料館所蔵



東京国際空港にて盛大な見送りを受けるハリーフア皇太子 日本外務省外交史料館所蔵



ラーシド・アブタッラー・アルヌアイミ閣下(写真右から2番目)に付き添われExpo70アブダビ館を訪れる皇太子同妃両殿下 ©HE Rashid Abdullah Al Nuaimi



Abu Dhabi Pavilion 日本外務省外交史料館所蔵

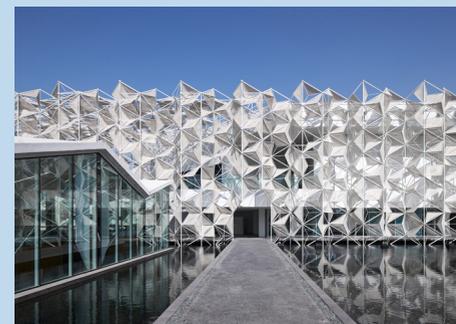


1970年の大阪万博で、特別にひとつ愉んだこと、それは人々の繋がりでした。人類の未来のために、皆が共に恩恵を受けられるようにという精神がそこにはありました。大阪万博はUAEと日本にとって素晴らしいスタートとなり、それ以来私たちは多くの経験を共有してきました。大阪・関西万博に向けて再び大阪に戻れることを楽しみにしています。

— ラーシド・アブドゥラー・アルヌアイミ閣下（同氏は、シェイク・ザイド殿下により、アブダビ館担当として1970年の大阪の地に派遣された）



ドバイ万博ジャパンデー・パレード©ドバイ万博公社



Expo 2020日本館 © JETRO

## 歴代駐UAE日本大使一覧 1972-2022

昭和47.12	石川良孝
昭和49.8	小高正直
昭和53.8	村田良平
昭和55.10	中平立
昭和58.8	野見山修一
昭和61.10	片倉邦雄
平成元年8	米山揚城
平成4.8	渡辺伸
平成8.9	小池寛治
平成11.4	望月敏夫
平成13.4	藤岡誠
平成15.9	辻本甫
平成18.8	波多野琢磨
平成21.3	渡邊達郎
平成24.11	加茂佳彦
平成27.5	藤木完治
平成31.1	中島明彦
令和3.11	磯俣秋男

## 歴代駐日UAE大使 1973-2022

1973年	ラーシッド・アブデュラ・アル・マハイ
1974年	エブラヒム・ハサン・サイフ
1974年	アハメド・サリム・アル・モカラブ
1985年	ムハメド・ダウイーシュ・ベンカラム
1988年	ハマド・サーレム・アル・マカミ
2000年	アハメド・アリ・ハマド・アル・ムアラ
2005年	サイード・アリ・ユースフ・アル・ノワイス
2016年	ハーリド・オムラン・アル・アメリ
2021年	シハーブ・アフマド・アル・ファヒーム